

ビープラッツ株式会社 (東証マザーズ : 4381)

2020年3月期 第2四半期決算説明資料



目次

(1) 2020年3月期 第2四半期業績概要

(2) 事業の業況

APPENDIX

・ 会社概要

・ 事業内容

(1) 2020年3月期 第2四半期業績概要

2020年3月期第2四半期 業績ハイライト

ストック収入は新規顧客獲得に伴い順調に推移

富士通（7月）、NTTコミュニケーションズ（9月）へサービス提供を開始

（単位：百万円）

	2019年3月期 2Q実績(単体)	2020年3月期 2Q実績(連結)		2020年3月期 業績予想(連結) (2019/8/13公表)		
		前年同期比	増減率	進捗率		
売上高	289	258	▲31	89.0%	856	30.1%
営業損益	▲19	▲75	▲55	—	88	—
経常損益	▲21	▲74	▲52	—	89	—
親会社株主に帰属する 当期純損益	—	▲74	—	—	64	—

	2019年 3月末実績(単体)	2019年 9月末実績(連結)		増減率
		前期末比		
総資産	791	879	87	111.0%
純資産	507	463	▲44	91.2%
自己資本比率	64.1%	51.2%	▲12.8pt	

※当社は、2020年3月期第1四半期より連結財務諸表を作成しております。従い、2019年3月期第2四半期及び2019年3月期実績は単体実績を記載しており、前期比較は参考値となります。

2020年3月期第2四半期 損益計算書

(単位：百万円)

	2019年3月期 2Q実績(単体)	2020年3月期 2Q実績(連結)	2020年3月期	
			前年同期比	増減率
売上高	289	258	▲31	89.0%
売上原価	101	128	26	125.7%
売上総利益	188	129	▲58	69.1%
販売費及び一般管理費	207	205	▲2	98.9%
営業損益	▲19	▲75	▲55	—
経常損益	▲21	▲74	▲52	—
税金等調整前 四半期純損益	▲21	▲74	▲52	—
法人税等合計	0	2	1	—
四半期純損益	▲22	▲76	▲54	—
非支配株主に帰属する 四半期純損益	—	▲1	—	—
親会社株主に帰属する 四半期純損益	—	▲74	—	—

■売上高
前年同期比減収ながら
ストック収入は順調に
推移
販売パートナーとの
協業実績は拡大

■売上原価
ソフトウェア開発投資
を継続的に実施し、
前年同期比増加

※当社は、2020年3月期第1四半期より連結財務諸表を作成しております。従い、2019年3月期第2四半期及び2019年3月期実績は単体実績を記載しており、前期比較は参考値となります。

2020年3月期第2四半期 貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年 3月末実績 (単体)	2019年 9月末実績 (連結)	2020年3月期第2四半期	
			前期末比	増減率
資産合計	791	879	87	111.0%
流動資産	419	440	21	105.0%
固定資産	372	438	66	117.7%
負債合計	284	415	131	146.2%
流動負債	215	207	▲8	96.0%
固定負債	68	208	139	305.3%
純資産	507	463	▲44	91.2%
自己資本	507	450	▲57	88.7%
非支配株主持分等	—	13	—	—

■ 流動資産
新規資金調達により手元資金が増加

■ 固定資産
本年度も引き続き積極的な製品強化のためのソフトウェア開発投資を継続

■ 固定負債
新規借入により長期借入金が増加

※当社は、2020年3月期第1四半期より連結財務諸表を作成しております。従い、2019年3月期第2四半期及び2019年3月期実績は単体実績を記載しており、前期比較は参考値となります。

四半期売上高推移

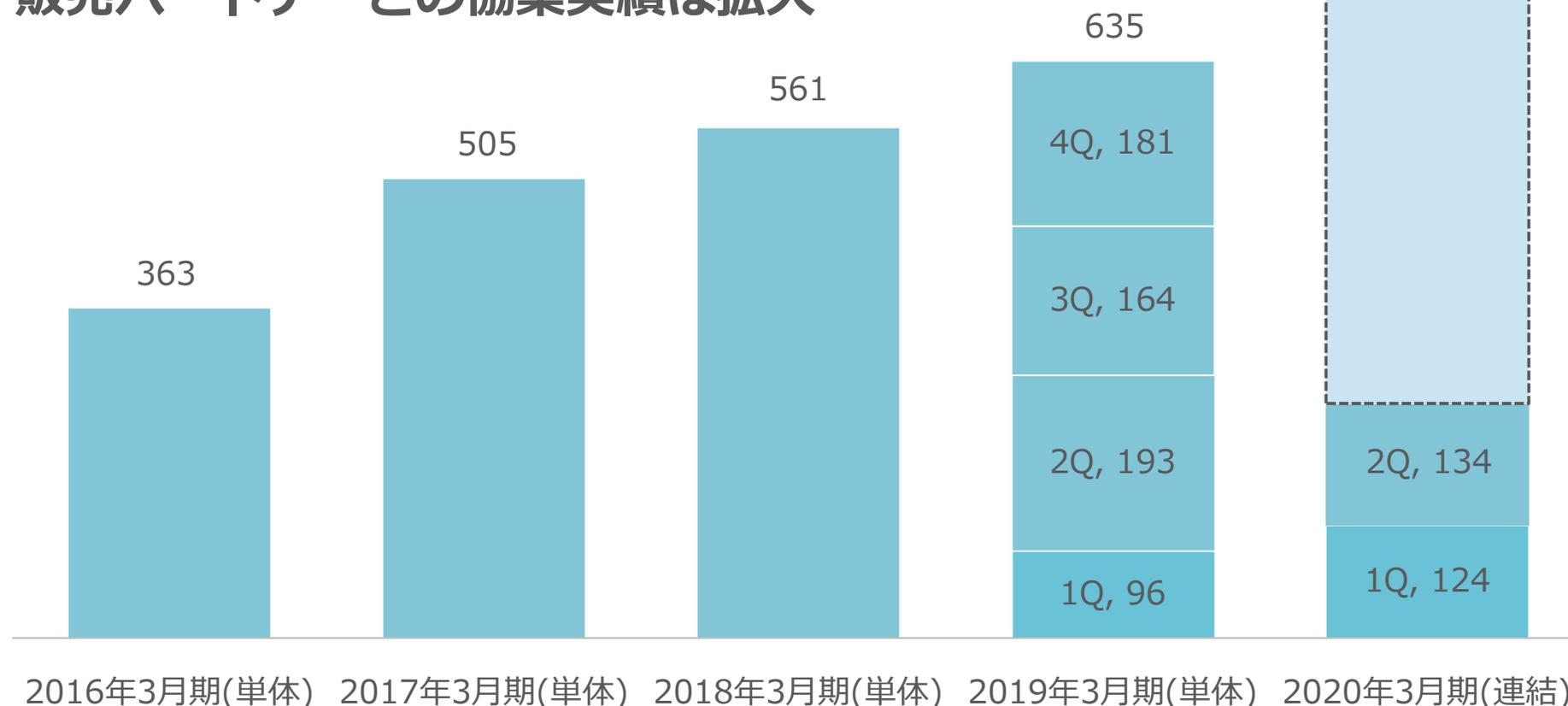
(単位：百万円)

今期計画(通期) : 前期比134.7%
2Q実績 : 前年同期比89.0%

今期計画

856

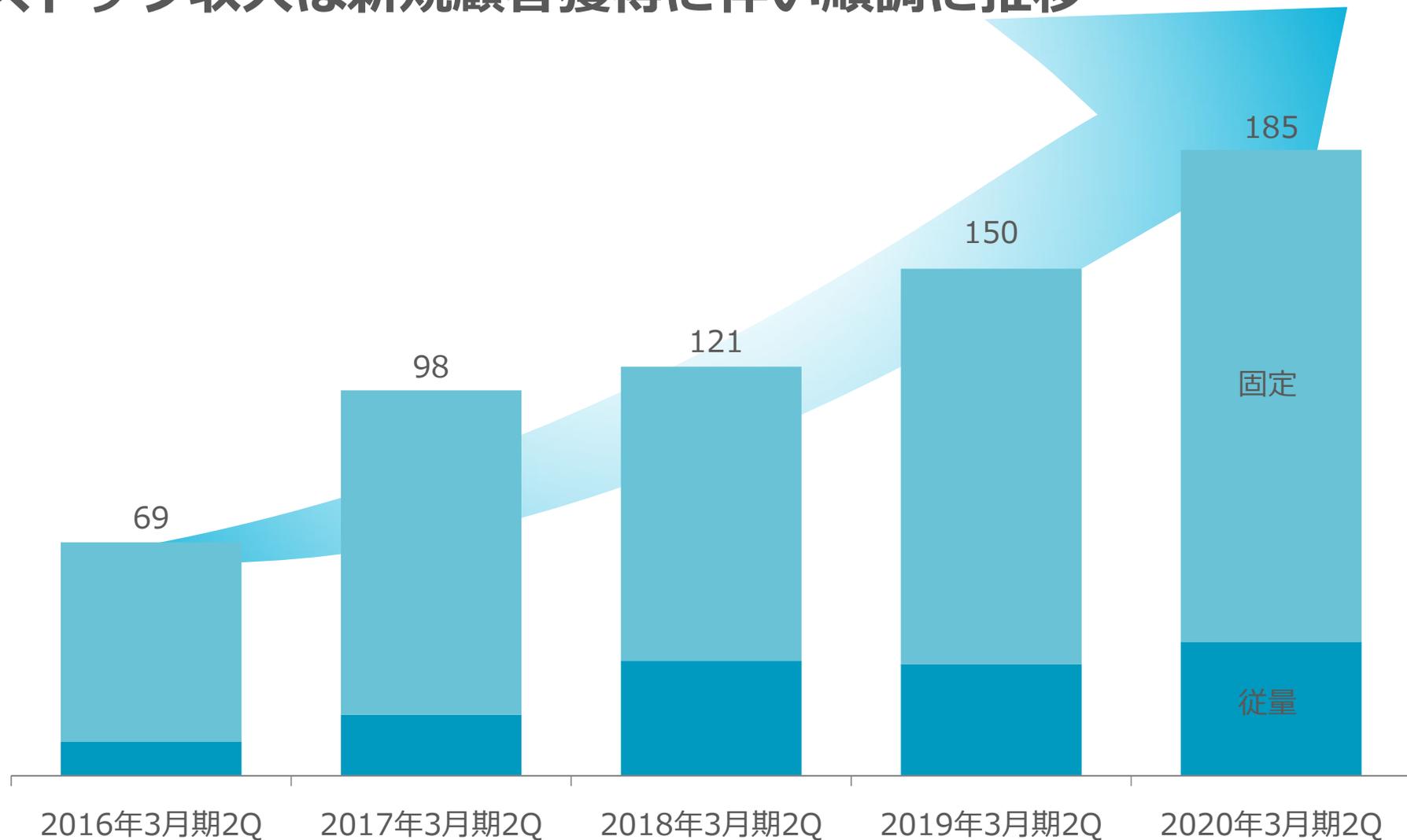
ストック収入が順調に推移
販売パートナーとの協業実績は拡大



※当社は、2020年3月期第1四半期より連結財務諸表を作成しております。従い、2019年3月期第2四半期及び2019年3月期実績は単体実績を記載しており、前期比較は参考値となります。

ストック収入は新規顧客獲得に伴い順調に推移

(単位：百万円)

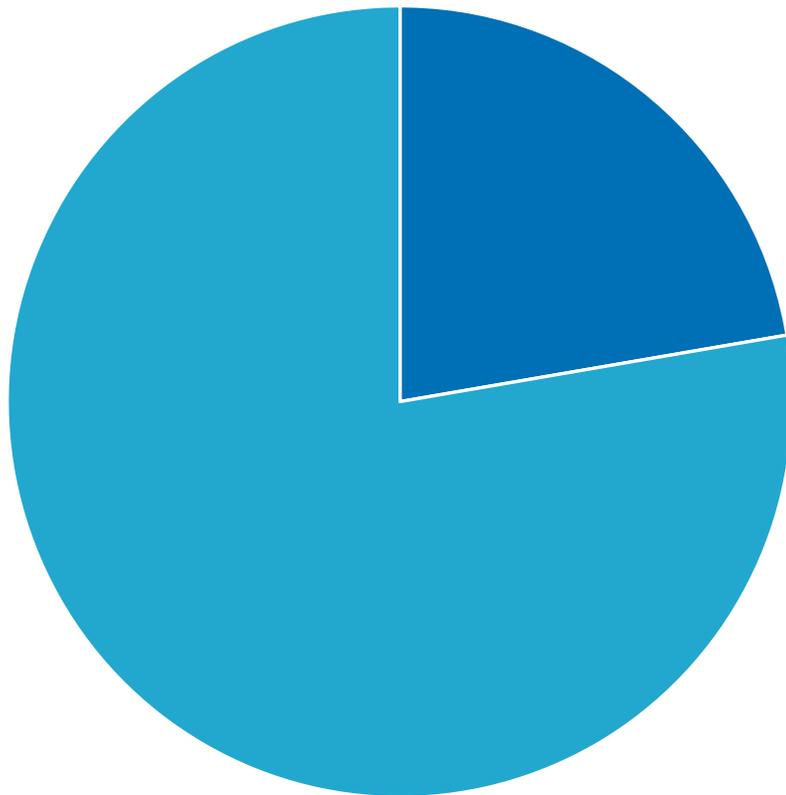


※当社は、2020年3月期第1四半期より連結財務諸表を作成しております。従い、2019年3月期第2四半期及び2019年3月期実績は単体実績を記載しており、前期比較は参考値となります。

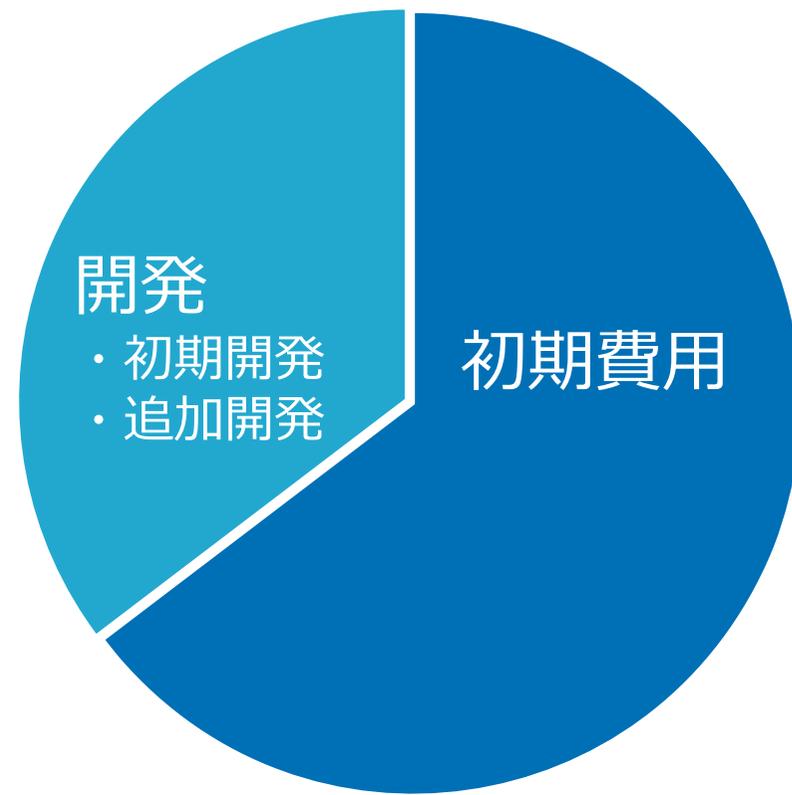
スポット収入構成

導入カスタマイズを伴う旧製品から、
スマートな初期導入が可能な新製品へシフト

2019年3月期2Q



2020年3月期2Q



(2) 事業の業況

1. 仕入・販売の両方向につながるパートナー間サブスクリプション取引機能などを中心とした、製品の強化
2. 既存販売パートナーとの取り組みの深化、あらたな販売パートナーの開拓を通じた市場ニーズの拡大に追従しうる、販売体制の強化
3. MaaS (Mobility as a Service)、電力、各種インフラなどの新たな事業領域に対応しうる、機能の強化

以上3つの戦略を柱に、BtoB向けサブスクリプションプラットフォームとして市場での存在感を確固たるものとし、デファクトスタンダードの地位を確立する

主なトピックス

2019年04月01日	株式会社サブスクリプション総合研究所を設立
2019年04月05日	トヨタの愛車サブスクリプションサービス「KINTO」にプラットフォームを提供
2019年04月09日	NTTコミュニケーションズ株式会社と「サブスクリプションビジネス」の支援サービスにおいて協業
2019年04月18日	電子決済等代行業者の登録を完了し、銀行APIを活用した機能の開発を開始
2019年04月24日	Microsoft Azure、Office365の販売パートナー向け 流通プラットフォームとしてBplats®の本格展開を開始
2019年05月14日	NECネットエスアイ「ネットダイレクトマーケット」にBplats®を採用 販売パートナーへの展開を開始
2019年05月14日	株式会社SETE MARESに出資
2019年05月16日	東京センチュリー株式会社との資本業務提携強化
2019年06月03日	株式会社サブスコアを設立
2019年07月01日	クウジット株式会社に出資 サブスクリプションビジネスでのAIを用いたデータ 利活用に取り組み
2019年07月17日	富士通株式会社に「Bplats® Platform Edition」のOEM提供を開始
2019年09月30日	サブスクリプションビジネスのための統合プラットフォーム「Bplats@」のNTTコミュニケーションズ株式会社への提供を開始
2019年10月04日	株式会社サブスクリプション総合研究所より書籍「SMARTサブスクリプション」を出版
2019年10月10日	株式会社三菱総合研究所が主催する未来共創イノベーションネットワークに加盟
2019年10月15日	書籍「SMARTサブスクリプション」が発売初週で売上ランキング（丸善丸の内本店（10/3～10/9））で1位を獲得

- 東京センチュリー株式会社との資本業務提携強化等を通じて販売パートナー体制の強化は着実に進捗
- 2019年7月には富士通株式会社、2019年9月にはNTTコミュニケーションズ株式会社が、それぞれ当社の「Bplats®」を採用し、「Bplats®」を基盤とするサービス提供を開始
- 株式会社サブスクリプション総合研究所、株式会社サブスコアを設立し、サブスクリプションビジネスの啓蒙並びに新規領域へのサービス展開を開始

APPENDIX

- ・ 会社概要

- ・ 事業内容

会社概要

会社概要



会社名	ビープラッツ株式会社
証券コード	4381
代表者	代表取締役社長 藤田健治
設立	2006年11月17日
本社所在地	東京都千代田区神田練塀町3 富士ソフト秋葉原ビル15階
事業内容	クラウドコンピューティングを利用した サブスクリプション（継続ストックビジネス）のプラットフォームを提供
資本金	4億8,363万円（2019年9月30日現在）
決算期	3月末
従業員数	47名（2019年3月31日現在）
拠点	ビープラッツ・サブスクリプションセンター(福岡県北九州市)

関係会社概要

Subscription Research Institute

株式会社サブスクリプション総合研究所

会社名	株式会社サブスクリプション総合研究所
代表者	代表取締役社長 宮崎琢磨
設立	2019年4月1日
本社所在地	東京都千代田区神田練塀町3 富士ソフト秋葉原ビル15階
事業内容	サブスクリプションの啓蒙に関する研究、 執筆、出版、公演 サブスクリプション事業化支援
資本金	1,000万円（2019年9月30日現在）
株主	当社 100%
決算期	3月末

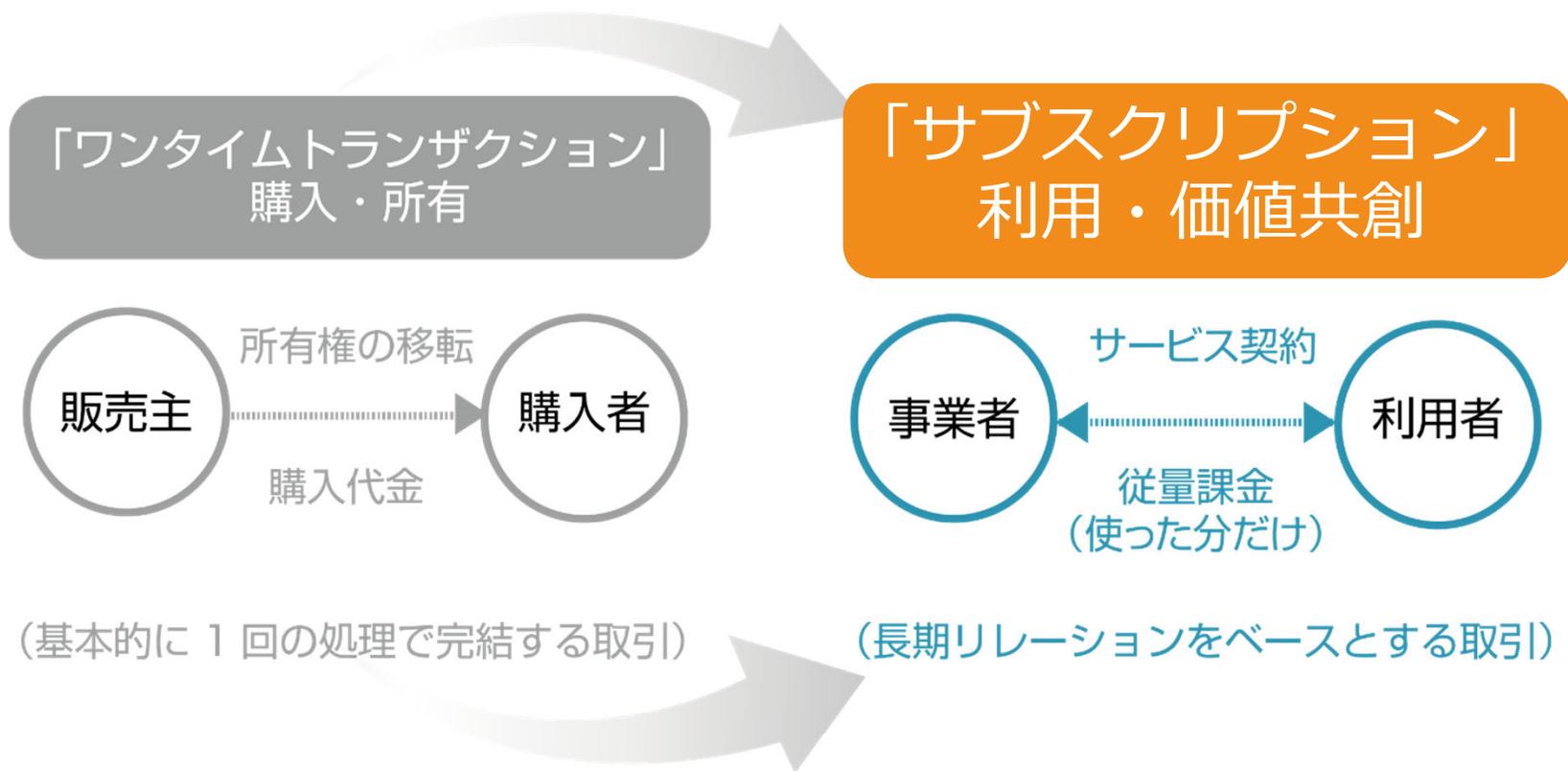
SUBSCORE

会社名	株式会社サブスコア
代表者	代表取締役社長 沼田 至
設立	2019年6月3日
本社所在地	東京都千代田区神田練塀町3 富士ソフト秋葉原ビル15階
事業内容	顧客評価スコアリングサービスの開発、販売 SMSを活用した顧客自身による申込確定サービスの開発、販売
資本金	3,000万円（2019年9月30日現在）
株主	当社 51% 株式会社光通信 49%
決算期	3月末

事業内容

事業構造の変化

当社が考える 社会の変化・革新による事業構造の進化



特に「サブスクリプション」に適合した事業トレンド

IoT	クラウド サービス	通信 モバイル	電力・ガス	スマート デバイス	シェアリング エコノミー
-----	--------------	------------	-------	--------------	-----------------

モノからコトへ

技術革新

- クラウドコンピューティング
- スマートデバイス
- IoT
- ビッグデータ
- AI

サブスクリプションを
取り巻くビジネスチャンス

社会変化

- カーシェア
- 民泊
- 音楽配信
- 動画見放題
- シェアハウス
- ライドシェア

規制緩和

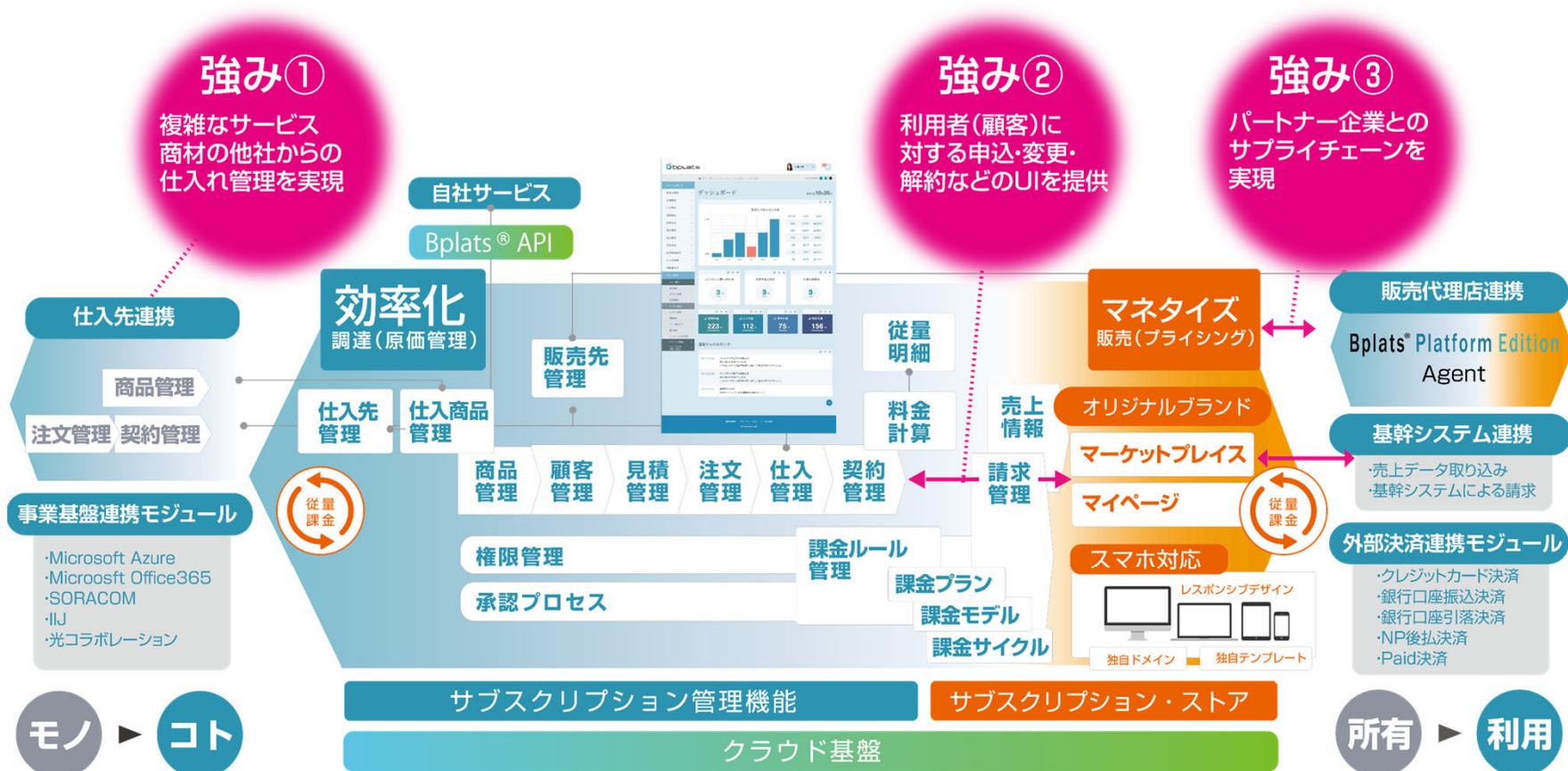
- 電力自由化
- ガス自由化
- MVNO (携帯)
- 光コラボ

所有から利用へ

使った分だけ

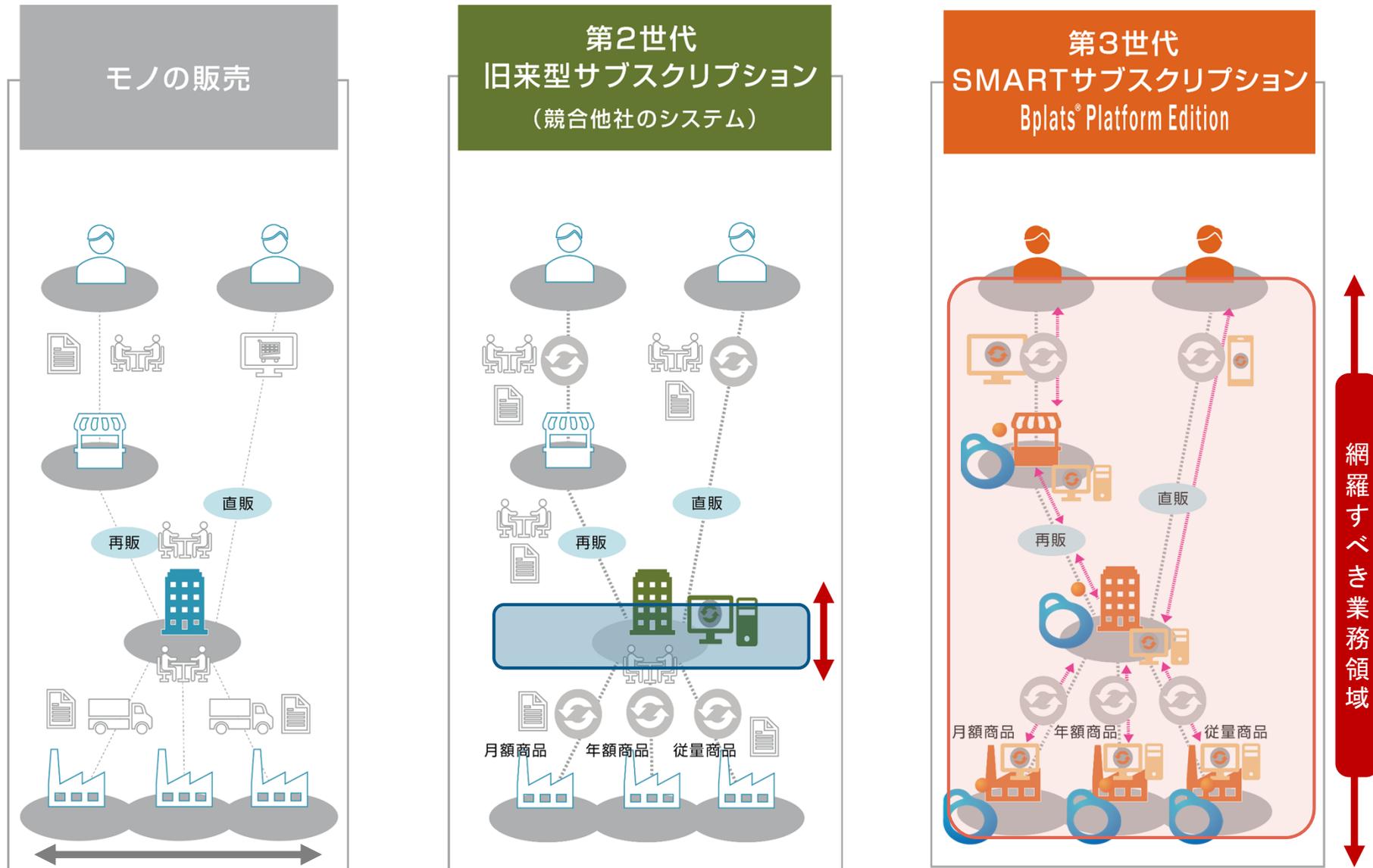
プラットフォームシステム概要

サブスクリプション統合プラットフォーム Bplats® Platform Edition



つながるビジネスモデル（3つの強み） 1/3

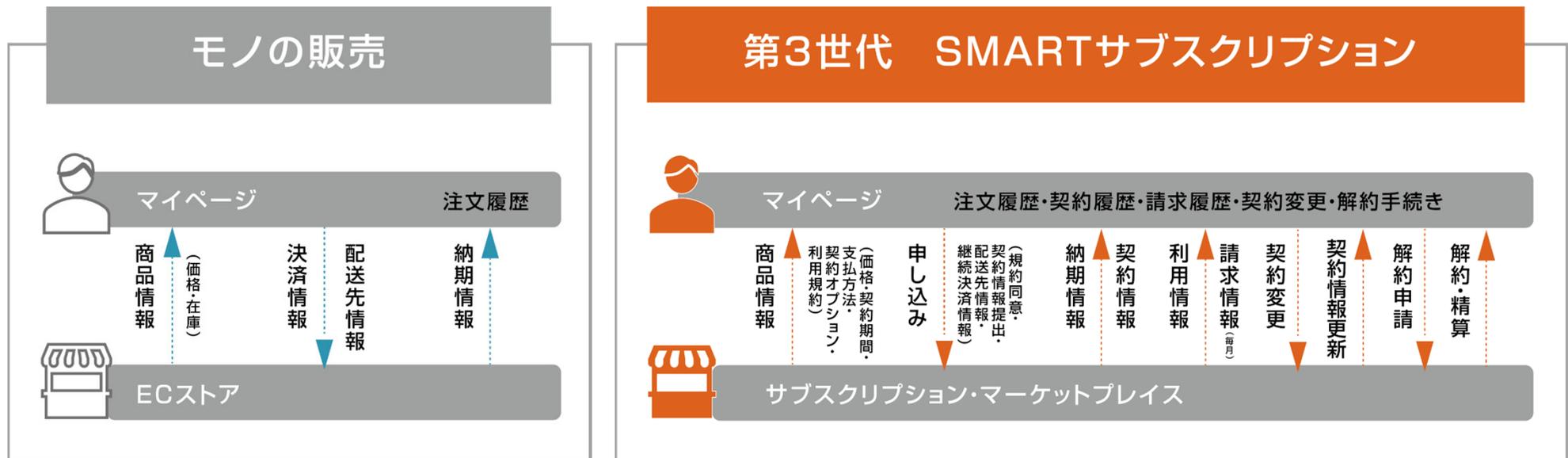
1. つながる（仕入・従量商材もつながる）



Bplats® Platform Edition

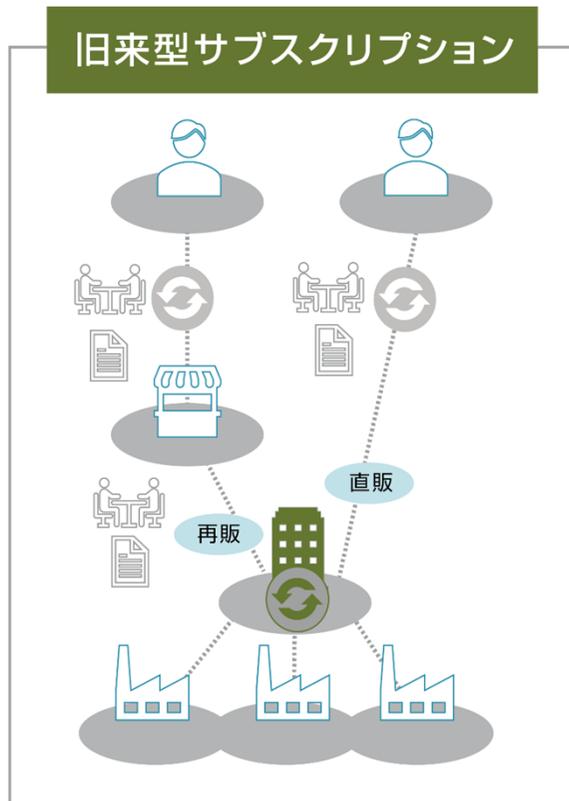
つながるビジネスモデル（3つの強み） 2/3

2. つながる（利用者・契約がつながる）

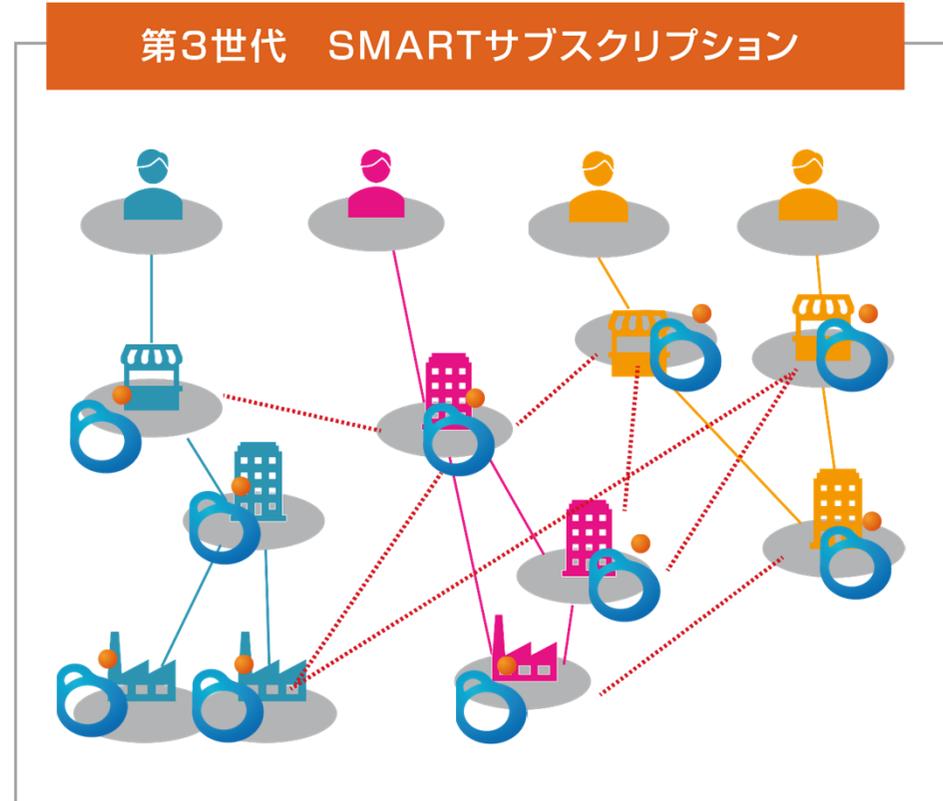


Bplats® Platform Edition

3. つながる（取引先・エコシステムがつながる）



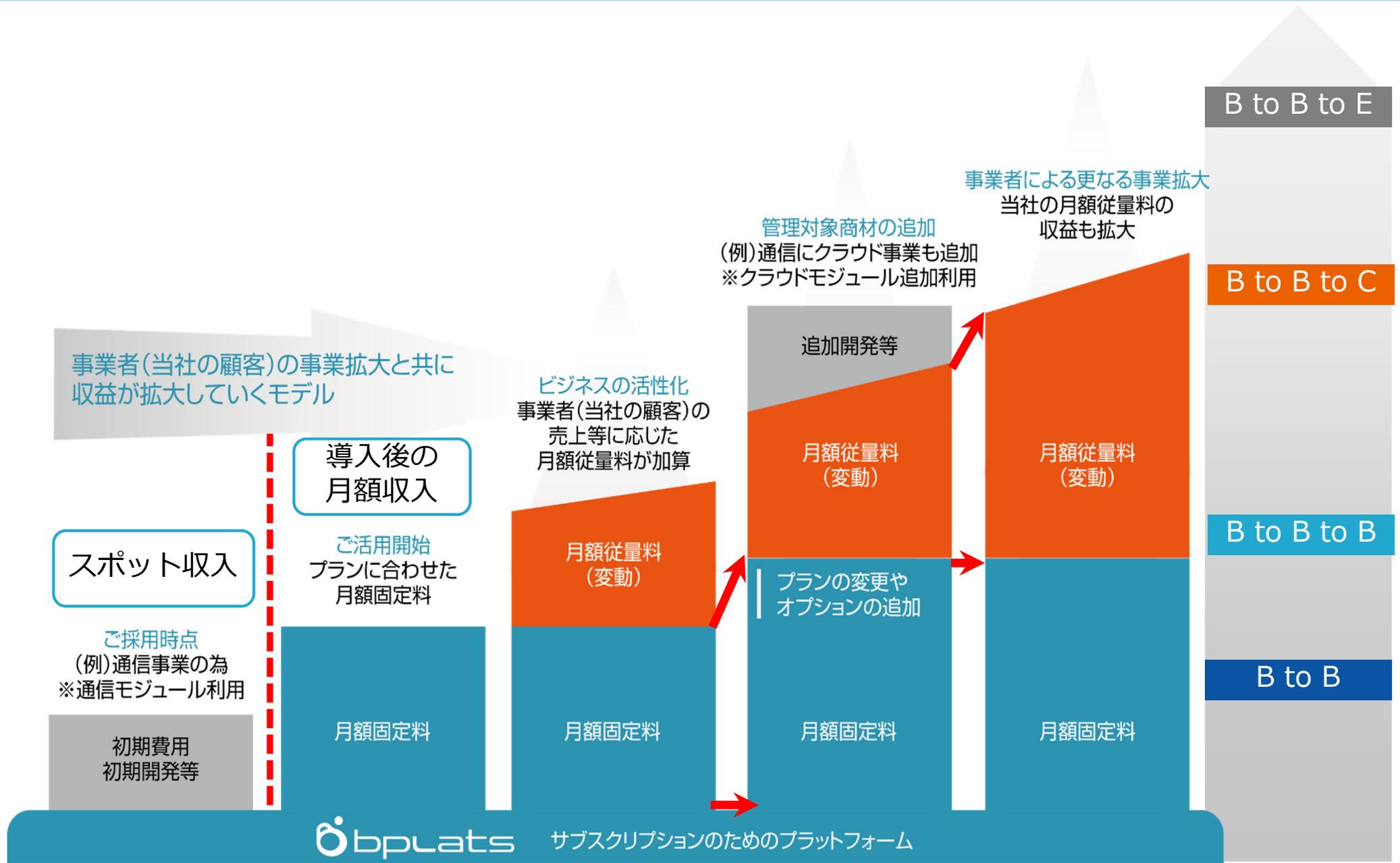
バックオフィス管理システム



単体のエコシステムが、相互に繋がり
エコシステム間連携を実現する

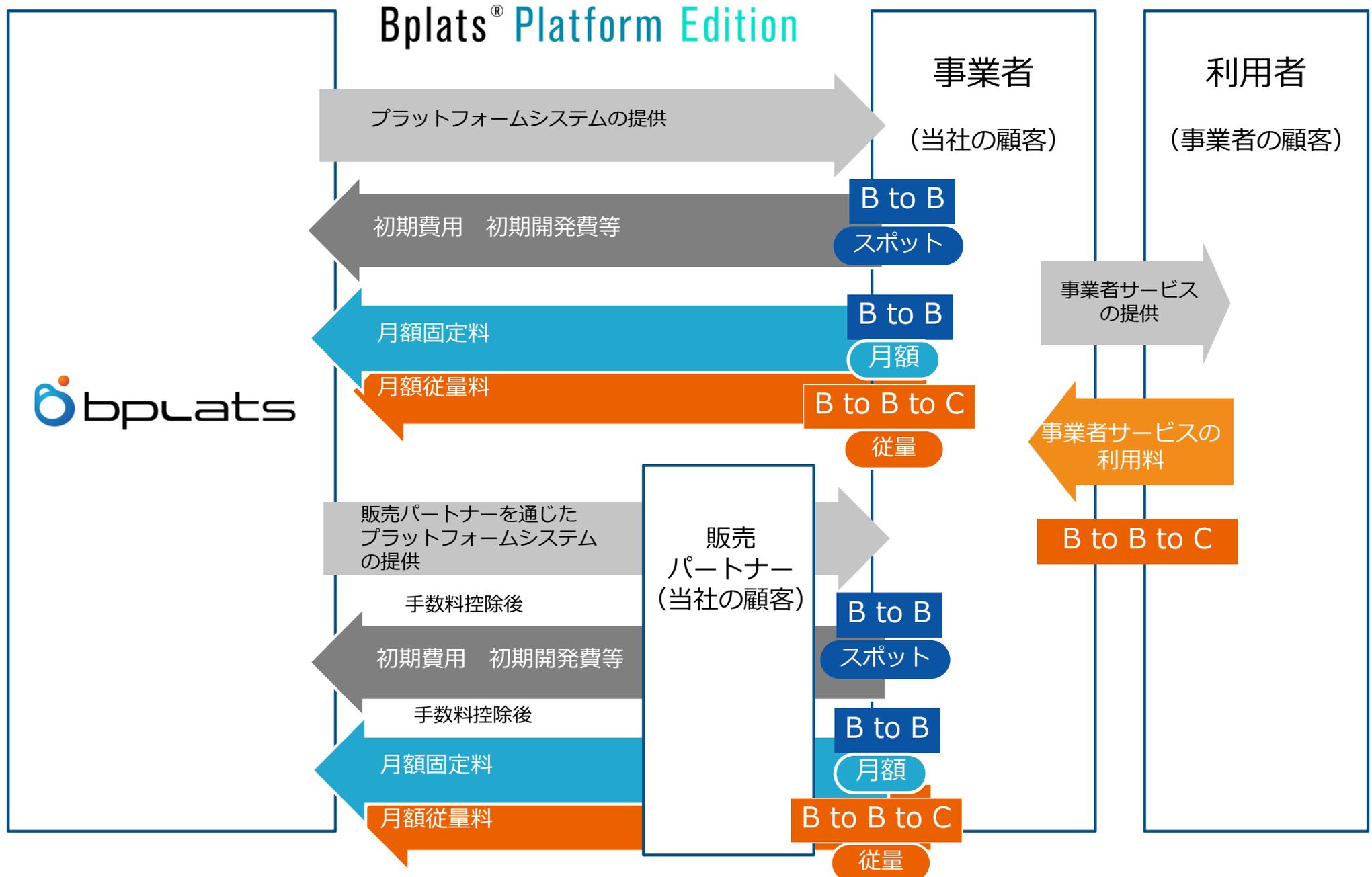
Bplats® Platform Edition

売上拡大イメージ



上図の収益モデルは、当社の事業において、事業者（当社の顧客）の事業拡大とともに収益が拡大していくことの想定を示す概念図であり、事業者（当社の顧客）による事業展開の状況、今後のリスクや不確実性その他の要因により、実際には、当該想定のとおりにならない可能性があります。

事業系統図



■本資料の注意点

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている業績見通し中期計画、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。